

CITIZEN®

取扱説明書

このたびは、シチズンウォッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いいただきますようお願い申し上げます。

なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要の際にご覧ください。

シチズンのホームページ(<http://citizen.jp/>)でも操作方法がご覧いただけます。また、モデルによっては、外装機能(計算尺、タキメーターなど)が搭載されている場合があります。取扱説明書に記載されていない外装機能の操作も、同様にご覧いただけます。

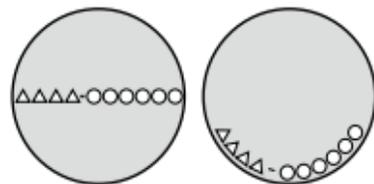
機種番号の見かた

時計の裏ぶたに、アルファベットを含む4ケタと6ケタ以上からなる番号が刻印されています。(右図)

この番号を「側番号」と言います。

側番号の先頭の4ケタが機種番号になります。右の例では「△△△△」が機種番号です。

刻印の位置の例



時計によって表示位置は異なります。

安全にお使いいただくために—必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、**4、5、52～63**ページを必ずお読みください。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

安全にお使いいただくために

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

■水深計測について

この時計は、水深計測機能について公的機関などで認定を受けた計測専門機器ではありません。

潜水やダイビングなどを行う際は、安全な潜水に必要な経験と技術を習得した上で、必ず専用機器を使用して行ってください。

この時計の水深表示は、目安としてお使いください。

安全にお使いいただくために

⚠ 危険

この時計の水深計測機能は公的機関の計測器として認可されたものではありません。
潜水やダイビングを行う際は、この時計の水深計測機能に頼らず、必ず専用機器と併用してください。

⚠ 警告

以下の場合、この時計の水深計測機能を使用しないでください。

- ・危険をともなう行動や状況判断が必要な場合
- ・その他、特殊な取り扱いをする場合
- ・充電が不十分な場合(→18ページ)

⚠ 注意

以下の場合、計測が正しく行われないことがあります。

- ・急激な水深の変化があった場合
- ・水圧センサーの周りに異物が付着している場合

この時計の特長



自動水深計測

水感知センサーで、時計が水中に入ったことを自動検知し、水深計測を開始します。



最大水深表示

水深計測後も、前回の最大水深が表示されます。



急浮上警告アラーム

時計の水圧センサーが急浮上を検知して、アラーム音でお知らせします。



エコ・ドライブ

光で充電するため、定期的な電池交換がいりません。

* 「エコ・ドライブ」は、シチズン独自の技術です。

もくじ

水深計測について	4	現在の充電量を 確認する	18
ご使用になる前に	9	水深を計測する	20
バンド調整について	10	水深計測を始める前に	20
保護シールについて	10	急浮上警告アラーム	24
特殊な構造のりゅうずや ボタンの使いかた	11	最大水深の記憶を 表示させる	30
各部の名称(通常時)	12	「OVER」表示に ついて	32
各部の名称 (水深計測時)	13		
充電について	14		

次のページに続く

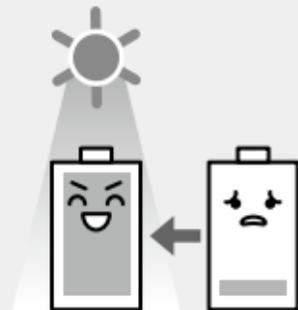
時刻を合わせる	34	防水性能について	54
カレンダーを 合わせる	35	お取り扱いに あたって	56
回転ベゼルを使う	36	保証とアフターサービス について	64
基準位置を確認・ 修正する	38	製品仕様	66
困ったときは	44	修理・保証についての お問い合わせ	68
エコ・ドライブ 取り扱い上の注意	52		

ご使用になる前に

開封後、時計をご使用になる前に、必ず次のことを行ってください。

充電量表示をご確認ください。(→18ページ)

充電量レベルが「0」や「1」のときは、すぐに充電してください。



この時計は、文字板に光を当てて充電します。
時計を快適にお使いいただくために、時計に光
をこまめに当てて充電してください。

充電については**14～19**ページをご覧ください。

次のページに続く

ご使用になる前に

■バンド調整について

お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります。(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)

バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

■保護シールについて

時計のガラスや金属部分(裏ふた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

■ 特殊な構造のりゅうずやボタンの使いかた

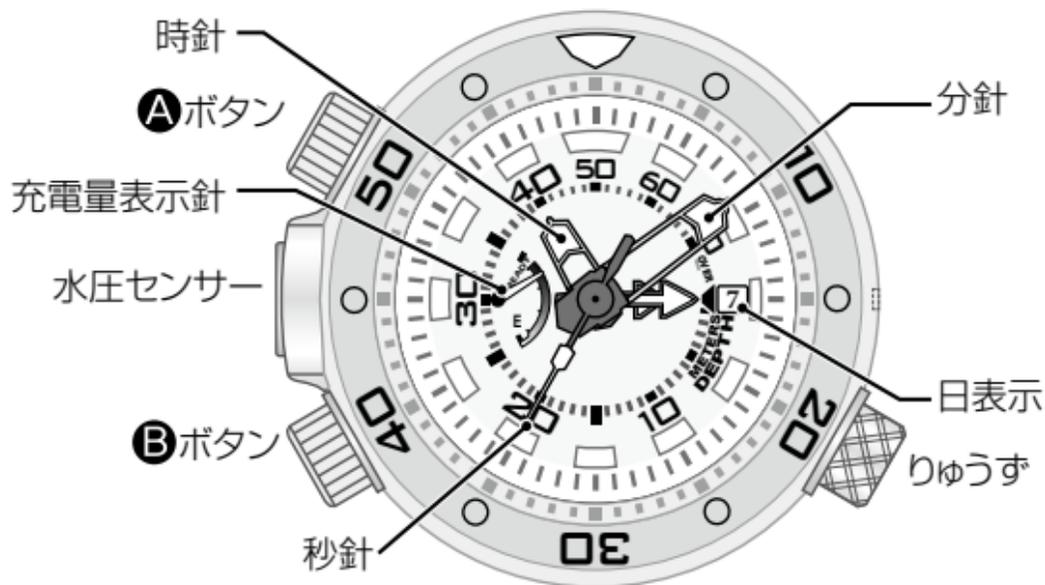
モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のりゅうずやボタンの場合があります。

ねじロックりゅうず・ねじロックボタン

時計を操作するときは、ロックを解除してください。

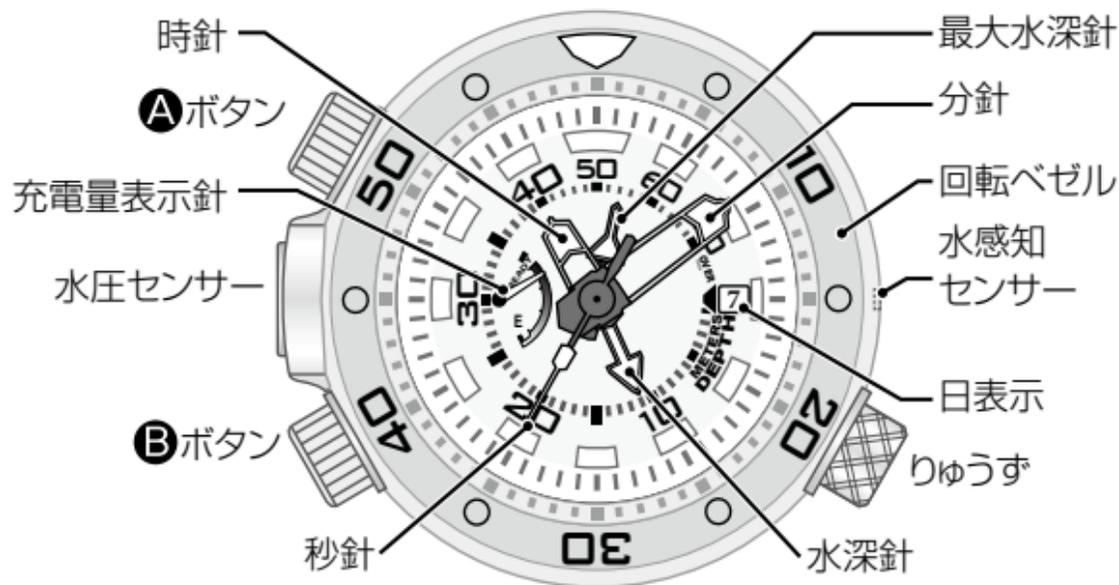
	ロックを解除する	再びロックする
ねじロック りゅうず	 <p>りゅうずが飛び出すまで、左に回す</p>	 <p>りゅうずを押し込みながら右に回し、しっかり締める</p>
ねじロック ボタン	 <p>ねじを左に回し、止まるまでゆるめる</p>	 <p>ねじを右に回し、しっかり締める</p>

各部の名称(通常時)



- お買い上げいただいた時計は、イラストと異なる場合があります。
- ソーラーセルが文字板の下に配置されています。

各部の名称(水深計測時)

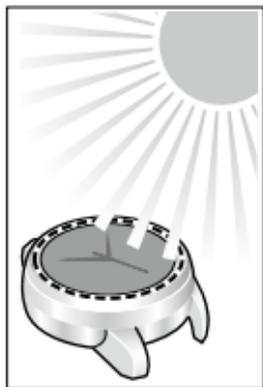


充電について

この時計は、文字板の下にあるソーラーセルによって発電された電気エネルギーを、内蔵の二次電池に蓄えることができます。充電は、文字板に直射日光や蛍光灯などの光を当てることにより行われます。

時計を太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置き、次のように充電すると、快適にご使用いただけます。

- 月に一度は直射日光に当てて、5～6時間充電する
- 光の当たらない場所での長期保管を避ける



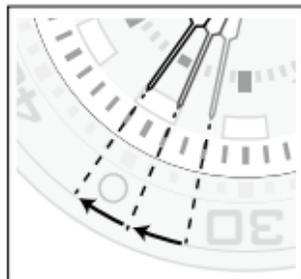
注意

- 高温下(約60℃以上)での充電はおやめください。
- 衣服などで時計が隠れて光に当たらないと、十分に充電できないのでご注意ください。

■ 充電不足になると(充電警告機能)

充電不足になると「充電警告機能」が働き、秒針が2秒ごとに動きます(2秒運針)。文字板に光を当てて充電してください。

- しばらく充電すると、秒針が1秒ごとに動くようになります(通常運針)。
- 2秒運針が4日以上続くと、充電不足で時計が停止します。



注意

- 2秒運針している場合でも、時刻・日は表示されます。計測機能は使用できません。

次のページに続く

■環境ごとの充電時間の目安

連続して照射した場合の数値です。目安としてご利用ください。

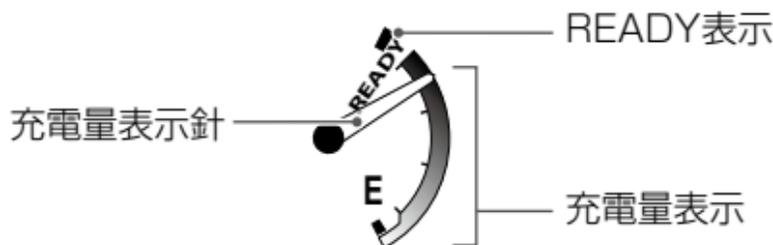
環境	明るさ (lx、ルクス)	充電時間(約)		
		通常に動く状態を1日保つ	時計が停止してから通常に動き出すまで	時計が停止してから充電完了まで
屋外(晴天)	100,000	3分	2時間	35時間
屋外(曇天)	10,000	11分	3.5時間	80時間
30W蛍光灯の20cm下	3,000	40分	8時間	280時間
屋内照明	500	4時間	50時間	—

- 直射日光での充電をおすすめします。蛍光灯や屋内照明では、十分に充電するには明るさが不十分です。

充電完了後、一度も充電しないで時計が停止するまで
およそ11ヵ月間使用できます。

現在の充電量を確認する

充電量表示



- 水感知センサー(→22ページ)が働くと、充電量表示針が「READY」を指します。

充電量表示の見かた

- 充電量レベルが「0」のときは、計測機能は使用できません。ただし、時刻は表示されます。また、計測機能を頻繁に使用すると、持続時間は短くなります。

現在の充電量を確認する

レベル	3	2	1	0
充電量表示				
およその持続時間	340日～ 300日	300日～ 200日	200日～4日	4日以下
表示の意味	十分充電されています。	充電状態は良好です。	やや充電量が不足しています。	充電不足です。まもなく充電警告が始まります。
	安心してお使いいただけるレベルです。		すぐに充電してください。	

水深を計測する

■水深計測を始める前に

この時計の水深計測機能を使用する前に以下の注意と、次ページの項目を確認してください。

注意

- 潜水やダイビングの際は、安全な潜水に必要な経験と技術を習得した上で行ってください。

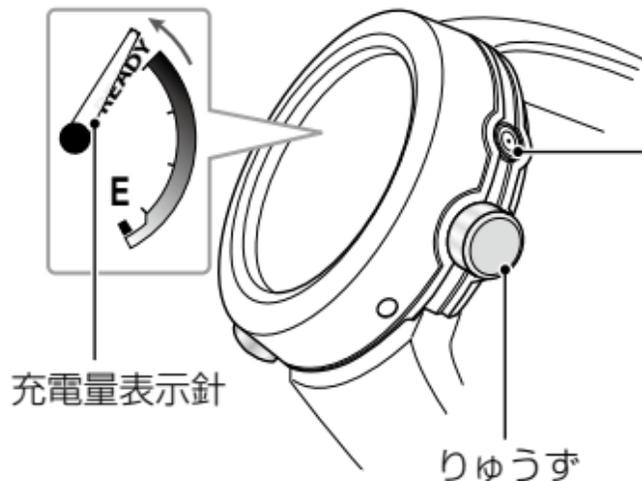
水深計測前の確認項目

- 潜水やダイビング専用の、市販の専用機器を用意している(→4ページ)
- 時計のバンドが傷んでいない
- 水圧センサーや水感知センサーの周りに異物が付着していない
- りゅうずやボタンのロックがかかっている(→11ページ)
- 時計の充電量レベルが「2」以上である(→18ページ)
- 急浮上警告のアラーム音の鳴りかた(→24ページ)
- 時計がぬれていない(→32ページ)
- 時計の針が「OVER」を指していない(→32ページ)
- 現在時刻が正しい(→34ページ)

水深を計測する

■水深計測を始める

この時計では、水に潜ると、自動的に水深計測が開始されます。



水感知センサー

この部分が水に触れたままおよそ2秒間経過すると、充電量表示針が「READY」を指し、水圧センサーによる水深計測が始まります。

水深表示の読みかた

充電量表示針:

水深計測が始まり水深針が動くと、充電量表示に戻ります。



最大水深針:

水深計測中の最大水深を表示します。

0 m

水深針:

現在の水深を表示します。

水深の表示範囲は次の通りです。

0 m~70 m (40 mまでは1 m単位、それ以降は2 m単位です。)

■水深が表示範囲を超えたときは

水深針と最大水深針が「OVER」を指します。

水深が表示範囲内に戻ると、水深針の「OVER」表示は解除され、水深表示になります。



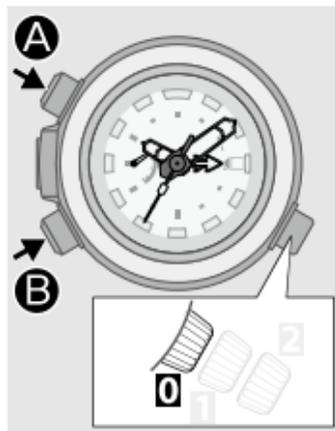
■急浮上警告アラーム

水深計測の際、1分間で9 m以上の水深差に相当する浮上を検知すると、急浮上警告アラームが鳴ります。

- アラームは、急浮上が続く限り鳴り続けます。
- 急浮上をやめても、アラーム音はおよそ10秒間鳴り続けます。
- アラーム音は、事前に確認することができます。(→25ページ)

アラーム音を確認する

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 りゅうずの位置が **0** のときに、**B** ボタンを押す

最大水深針が、前回計測時の最大水深を表示します。

2 最大水深表示中に、**A** ボタンを押す

アラーム音が10秒間鳴ります。

- アラーム音終了後、およそ10秒間経過すると、最大水深表示は解除されます。
- 途中でやめるときは、**B** ボタンを押します。

■ 水深計測を終える

時計を水中から出して、水感知センサーはじめ時計全体の水気をふき取ってから、**A** ボタンを5秒間以上押して、水深計測を終了させます。

- 水深針が0 mに戻ったままおよそ10分間経過すると、水深計測は自動で終了します。
- 水深計測開始後一度も水深針が動かなかったとき(水深が常に1 m以内で、充電量表示針が「READY」を指しているとき)は、水感知センサーの水気をふき取ると、数秒で水深計測は終了します。

■水深計測が終わったら

水深計測が終わったら、次の項目を確認して、必ず時計のメンテナンスをしましょう。

水深計測後の確認項目

- すぐに時計を真水で洗い、乾いた布などで水気を完全にふき取る
- 時計のガラスの内面にクモリが発生していない
- 時計内部に海水が入っていない
- 時計のバンドが傷んでいない
- りゅうずやボタンのロックがかかっている(→11ページ)
- 時計を充電する(→14ページ)

■ 水深計測が終わったら(つづき)

時計を真水で洗うときは

器に真水を張って洗ってください。

- 水道の蛇口から直接水をかけないように注意します。
- 水気があるときは、りゅうずやボタンの操作は行わないでください。

注意

- 水感知センサーに汚れや塩分が残ってしまうと、適正な計測ができなくなる場合があります。

ガラス内部にクモリがあったり、水が入ったときは

ガラス内部のクモリが長時間消えなかったり、時計内部への海水侵入の可能性がある場合は、時計を箱やビニール袋に密封して、すみやかに「シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係」(→68ページ)に修理依頼をしてください。

- 放置していると、時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる危険があります。

最大水深の記憶を表示させる

■ 最大水深表示の記憶について

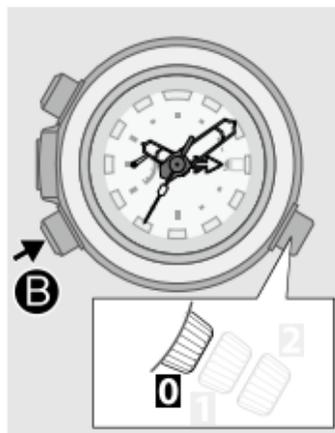
最大水深針は、計測ごとの最大水深を表示します。

最大水深表示は、次の条件のいずれかを満たしたとき記憶され、計測終了後に表示させることができます。

- 1回の計測で、3分間以上連続して水深表示が1 mより深い
- 1回の計測で、1分間以上連続して水深表示が8 mより深い

ただし、急激な水深変化(→**33**ページ)などの理由で、計測が中断された場合、最大水深が記憶されないことがあります。

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 りゅうずの位置が **0** のときに、**B** ボタンを押す

最大水深針が、記憶している最大水深(→30ページ)を表示します。

- ご購入時や時計修理後は、検査時の最大水深が表示されます。

2 **B** ボタンを押して終了する

- ボタンを押さなくても、およそ10秒間経過すると、最大水深表示は解除されます。

「OVER」表示について

水感知センサーがぬれ続けている場合

水滴や汗などを水感知センサーが検知し、そのまま60分間経過すると、水深針と最大水深針が「OVER」を指します。



- 水深針と最大水深針が「OVER」を指しているときは、計測はできません。
- 「OVER」表示を解除するには、水感知センサーの水気や汚れをふき取ります。
- 表示が解除されないときは、**44、45**ページをご覧ください。

非常に急激な水深変化があった

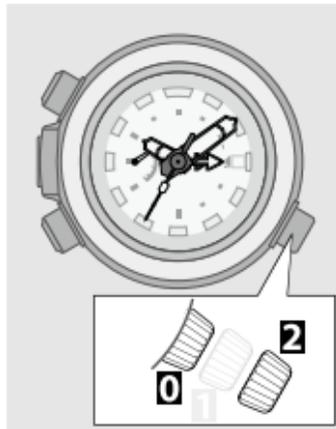
水深計測中に、1秒間に±4 m以上の水深差を計測すると、水深針と最大水深針が「OVER」を指します。



- 水深針と最大水深針が「OVER」を指しているときは、計測はできません。
- 「OVER」表示を解除するには、時計を水中から出して、水感知センサーはじめ時計全体の水気をふき取ってから、**A**ボタンを5秒間以上押します。
- 表示が解除されないときは、**44、45**ページをご覧ください。

時刻を合わせる

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 秒針が0秒を指しているときに、りゅうずの位置を 2 にする

時計がとまり、水深針、最大水深針が基準位置に移動します。

- 充電量表示針は小刻みに動き、「READY」を指します。

2 りゅうずを回して、時刻を合わせる

- 午前/午後の違いに注意して合わせます。
- 午後10時を超えると、日表示が1日進み始めます。りゅうずを反時計回りに回しても、日表示は戻りません。

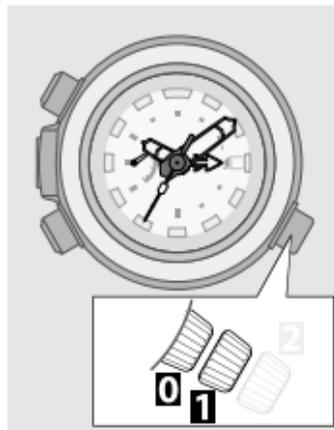
3 時報などに合わせて、りゅうずの位置を 0 にして終了する

カレンダーを合わせる

この時計は、3月、5月、7月、10月、12月の初日に、カレンダーを合わせる必要があります。

- 次の時間帯は、この時計の日表示が切り替わるため、カレンダー合わせを避けてください。日表示が正しく切り替わらない場合があります。

時間帯: 午後10時から午前0時まで



時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。

- 1 りゅうずの位置を **1** にする
- 2 りゅうずを時計回りに回して、日表示を合わせる
- 3 りゅうずの位置を **0** にして終了する

回転ベゼルを使う

回転ベゼルを使って、ある時点からの経過時間や、決めた時間までの残り時間を簡単に知ることができます。

- ダイビングなど潜水の際には、必ず専用機器をご利用ください。この時計は目安としてお使いください。
- 回転ベゼルは、反時計回りにのみ回転します。

経過時間を知る

回転ベゼルの△を、現在の分針の位置に合わせます。

回転ベゼルの目盛りを読むと、経過時間(60分以内)を知ることができます。



残り時間を知る

回転ベゼルの◁を、目標時刻(60分以内)に合わせます。
分針の位置から◁までの回転ベゼルの目盛りを読んで、残り時間を知ることができます。



基準位置を確認・修正する

水深計測が正しく表示されない場合、各針の基準位置が正しいかどうか確認します。

基準位置とは

針によって水深や最大水深を表示するための、基準となる位置のことです。

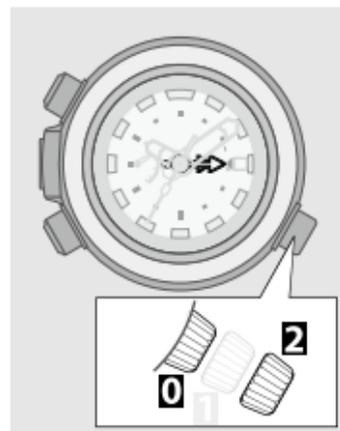
- 水深針: 0 m (3時位置)
- 最大水深針: 0 m (3時位置)
- 時針、分針、秒針、充電量表示針、日表示には基準位置はありません。



■ 基準位置を確認する

水深針、最大水深針の基準位置が正しいかどうか確認します。

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 充電量表示を確認する

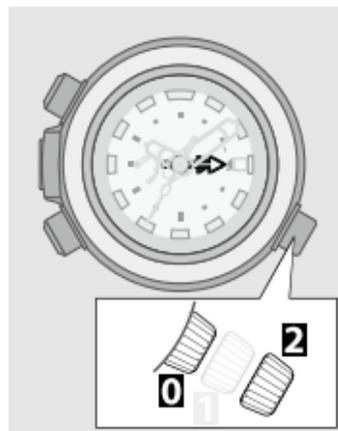
- 充電量レベルが「2」未満のときは、充電してください。

2 りゅうずの位置を 2 にする

時計がとまり、水深針、最大水深針が現在の基準位置に移動します。

- 充電量表示針は小刻みに動き、「READY」を指します。

次のページに続く



3 基準位置を確認する

38ページを参考に基準位置を確認します。

- 水深針: 0 m(3時位置)
- 最大水深針: 0 m(3時位置)

正しい基準位置にない場合は、42ページ手順3以降で修正します。

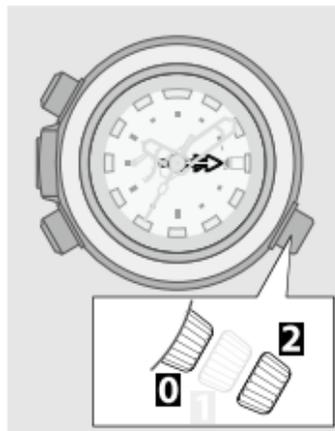
4 りゅうずの位置を 0 にして終了する

■ 基準位置を修正する

各針が正しい基準位置を示すように修正します。

- ・ 基準位置の修正が終わったら、時刻合わせを行ってください。

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 充電量表示を確認する

- ・ 充電量レベルが「2」未満のときは、充電してください。

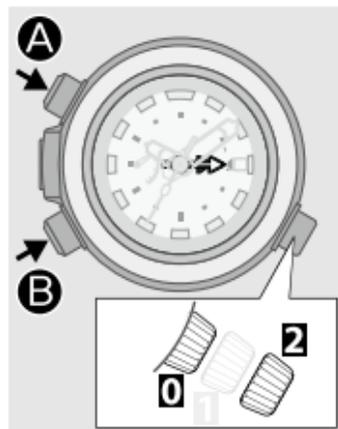
2 りゅうずの位置を 2 にする

時計がとまり、水深針、最大水深針が現在の基準位置に移動します。

- ・ 充電量表示針は小刻みに動き、「READY」を指します。

次のページに続く

基準位置を確認・修正する



3 **B** ボタンを2秒間以上押す

水深針が10秒位置に移動し、最大水深針の基準位置が修正できるようになります。

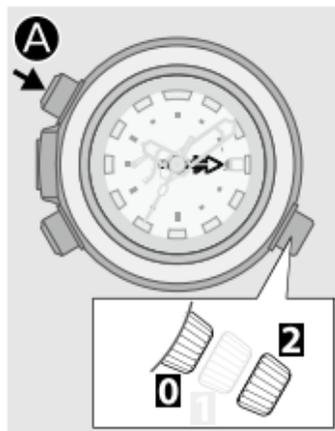
4 **A** ボタンを押す

ボタンを押すごとに、針が1ステップ動きます。
・押し続けると、連続して動きます。

5 **B** ボタンを押して、針を切り替える

最大水深針が10秒位置付近に移動し、水深針の基準位置が修正できるようになります。

・ **B** ボタンを押すごとに、修正対象の針を切り替えることができます。



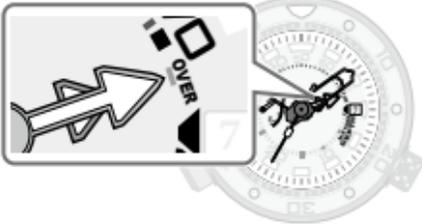
6 A ボタンを押す

ボタンを押すごとに、針が1ステップ動きます。
・押し続けると、連続して動きます。

7 りゅうずの位置を 0 にして終了する

困ったときは

困ったときは以下の項目をご確認ください。

時計の状態	対処方法	詳細ページ
水深計測ができない 	計測水深が表示範囲(0 m~70 m)から外れています。表示範囲内に戻れば、水深表示に戻ります。	24
	水感知センサーの水気を乾いた布などでふき取る	32
	水圧センサーが気圧異常を感知しています。通常気圧に戻れば、水深計測ができます。	-
	A ボタンを5秒間以上押す	-

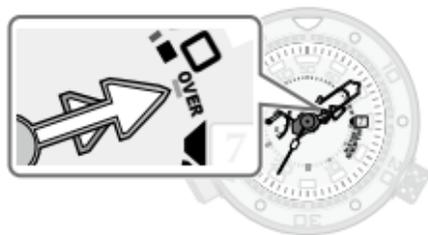
時計の状態

対処方法

詳細ページ

「OVER」表示を解除できない

2本の針が「OVER」を指している



前ページの対処を行っても「OVER」表示が解除できないとき、または、何度もくり返し「OVER」表示をするときは、計測機能に問題が発生しています。「シチズンカスタマーサービスお客様修理受付係」に修理をご依頼ください。

68

次のページに続く

45

困ったときは

時計の状態	対処方法	詳細ページ
水深計測が始まらない		
時計を水に入れても、充電量表示針が「READY」を指さない	りゅうずの位置を 0 にする	21
	充電する	14
	水感知センサーに異物が付着していないか確認する	-
水深針が0 mから動かない	水圧センサーが異物で塞がれていないか確認する	-
	水深が1 m未満の場合、水深表示は0 mになります。	23

時計の状態	対処方法	詳細ページ
針の動きがおかしい		
水深針、最大水深針が勝手に動いている	水感知センサーの水気を乾いた布などでふき取る	-
	A ボタンを5秒間以上押す	-
水深表示がおかしい	基準位置を確認・修正する	38
最大水深表示がおかしい	基準位置を確認・修正する	38

困ったときは

時計の状態	対処方法	詳細ページ
針の動きがおかしい(つづき)		
秒針が2秒ごとに動く	充電する	14
秒針が動かない	りゅうずの位置を 0 にする	-
	直射日光で2時間程度充電する	14
充電量が確認できない	りゅうずの位置を 0 にする	-
	水感知センサーの水気を乾いた布などでふき取る	26

時計の状態	対処方法	詳細ページ
カレンダーがおかしい		
日表示が正しくない	カレンダーを合わせる	35

困ったときは

時計をリセット(オールリセット)して、初期の状態に戻すことができます。

- オールリセットを行っても、最大水深の記憶は保持されます。

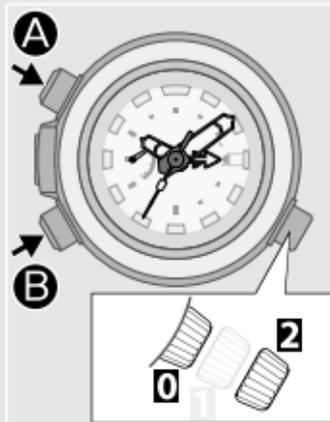
オールリセットした後は、必ず次の操作を行ってください。

1. 基準位置を合わせる

オールリセットをすると、時計は基準位置合わせの状態になります。**42**ページの手順4以降をご覧ください。

2. 時刻・カレンダーを合わせる

時計の操作を始める前に、時計がぬれていないことを確認してください。



1 充電量表示を確認する

・ 充電量レベルが「2」未満のときは、充電してください。

2 りゅうずの位置を 2 にする

水深針、最大水深針が現在の基準位置に移動します。すべての針が止まるまで、操作しないでください。

3 ① ボタンと ② ボタンを同時に4秒間以上押す

ボタンから手を離すと、各針が動き、リセットが行われたことをお知らせします。

エコ・ドライブ取り扱い上の注意

《時計は常に充電を心がけてお使いください》

- 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
- 時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠ 注意 充電上の注意

- ・ 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので高温(約60℃以上)での充電は避けてください。
 - 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい場所での充電
白熱灯で充電するときは、必ず50 cm以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。
 - 車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電



《二次電池の交換について》

- この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。
ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり二次電池の容量が早くなります。定期的な分解掃除(有料)をお奨めします。

⚠ 警告 二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

⚠ 警告 指定の二次電池以外は使わないでください

- この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んででも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。

防水性能について

⚠ 警告 防水性能について

- 潜水用防水時計は、空気ポンベを使用した空気潜水(スキューバ潜水)には使用できますが、ヘリウムガスを使用する飽和潜水などには使用できません。

名称	表示	仕様
	文字板または裏ぶた	
潜水用防水時計	DIVER'S 200m	200m防水

- この時計に使用されているパッキングは消耗品のため、長期間のご使用により劣化します。パッキングが劣化すると、防水性能を維持できなくなり、時計内部に水が入って時計の機能異常や動作停止の原因となる場合があります。2~3年毎に弊社で点検(有償)をお受けになり、必要に応じてパッキングやガラスなどの交換を行ってください。

使用例					
					
水がかかる程度 の使用。(洗顔、 雨など)	水仕事や一般 水泳に使用。	スキンドイビ ング、マリンズ パーツに使用。	空気ボンベ使用 のスキューバ 潜水に使用。	ヘリウムガスを 使用する飽和 潜水に使用。	濡れたままの りゅうずや ボタンの操作。
○	○	○	○	×	×

お取り扱いにあたって

注意 人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

⚠ 注意 使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
 - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
 - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
 - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。
時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる危険があります。

注意 携帯時の注意

<バンドについて>

- 皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。また皮革バンドは自然素材のため磨耗や変形、変色などの経年劣化があります。定期的に交換してください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドに揮発性薬品、漂白剤、アルコール成分が含まれる物質(化粧品など)が付着しないようにしてください。色落ち、早期劣化の原因となります。また、直射日光などの紫外線も変色や変形の原因となります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。

お取り扱いにあたって

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
 - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
 - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります。(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)
バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

<温度について>

- 極端な高温/低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

<磁気について>

- アナログ式クォーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。
磁気の強い健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー部、電磁調理器などに近づけないでください。

お取り扱いにあたって

<ショックについて>

- 床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

<静電気について>

- クォーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- 化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含むもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

<保護シールについて>

- 時計のガラス部分や金属部分(裏ぶた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

注意 時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド(ゴムバンド)は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

保証とアフターサービスについて

<保証について>

正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は時計の機能を維持するための修理用部品を、通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・りゅうず・プッシュボタン・バンドなどの外装部品には、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

<ご転居・ご贈答品の場合>

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

<定期点検(有償)について>

• 防水性能について

防水時計の防水性能は経年劣化しますので、安全に永くご使用いただくために2~3年に一度防水検査を行なっていただくことをお勧めします。防水性能を維持するためには、部品の交換が必要ですので、パッキングなどの交換をご依頼ください。

• 分解掃除(内装修理)について

腕時計を永くご愛用いただくには分解掃除(内装修理)が必要です。歯車などの部品は永くご使用いただくことにより磨耗してしまいますが、これを抑えるために潤滑油を使用しております。しかし経年劣化により潤滑油の汚れなどで部品の磨耗が進み、故障に至ることがあります。目安として5年に一度の分解掃除のご依頼をお勧めします。

<修理について>

時計の品質を維持するために、この時計はバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。これは、修理、点検、調整等に特殊技術、設備を必要とするためです。修理等の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

<その他お問い合わせについて>

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。

製品仕様

機種	J250	型式	アナログソーラーパワーウォッチ
時間精度	平均月差±15秒 常温(+5℃~+35℃)携帯時		
作動温度範囲	-10℃~+60℃		
表示機能	<ul style="list-style-type: none">• 時刻: 時・分・秒• カレンダー: 日• 充電量: 4段階		
持続時間	<ul style="list-style-type: none">• 充電完了後、一度も充電しないで時計が停止するまで約11ヶ月• 充電警告が始まってから時計が停止するまで: 約4日		
使用電池	二次電池(ボタン型リチウム電池) 1個		

付加機能	<ul style="list-style-type: none">• 光発電機能• 充電量表示機能(4段階表示)• 過充電防止機能• 充電警告機能(2秒運針)• 水深計測機能• 最大水深表示機能• 水感知機能(READY)• 急浮上警告機能(アラーム音)• 基準位置確認・修正機能(水深針、最大水深針)
計測特性	<ul style="list-style-type: none">• 計測範囲: 0 m ~ 70 m• 精度保証: 0 m ~ 20 m: ± 1 m / 20 m ~ 70 m: ± 2 m• 精度保証温度: 0°C ~ +40°C

製品仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

<http://citizen.jp/>